

平成三十年十月

神 示

この世の^{世界}仕組みを知り 運命を操る神の名を唱えて「人生」歩む

我が身の幸運が見えていようか

神の願いを受け入れ 使者の^{人生}道を歩みし供丸齋の^{救世心}心に

開運かなう^{今日}今の時代がある

この^{信者}真実を悟れる者は 神示の価値もつかめている

「教え」を人生の支えに「生きる」思いも深く

「実体」は大きく引き上げられてゆく

信者に問う

なぜ ^{人間}人は ^{よくしん}欲心にのまれ 「道」を外すのか

なぜ ^{人間}人は 自我に負け 奉仕に生きる^心人になれぬのか

供丸齋が 「道の真理」に悟りを開き

^{社会}世に説いた^{救世心}心の芯にあつた^{問い}こと

^{神魂}神が供丸光を通して 真理を^{社会}世に教える^{今日}今こそ

信者は供丸齋の思いをしので

「教え」に生きる^{信者}人を^{時代}目指す時

この^{信念}思いが 供丸齋の人生に近づき 重なる思いを強くする

^{人間}人は 目指すべき手本を得て

ますます「正道」を歩む心を強く持てる